



ふるさと会よりご報告

会長(高松市観光大使)  
池田 克彦



会員の皆様お元気のこと  
と思います。香川県・高松市の広  
報等から地元の動きと会の活  
動ご報告を致します。

- ①瀬戸内国際芸術祭が春・夏・秋に分けて開催されました。我らふるさと会は10月27日～28日秋の瀬戸芸に参加しました(後述します)
- ②うどん県・時間旅行物語の開催。うどん県がまだ香川県だった昭和30～40年代多くの修学旅行生がにぎわっていた香川の観光地を昔訪れた「あの場所」へもう1度懐かしいあの日に帰ろう!のフレーズで県内各地への観光案内が実施されています。
- ③11月5日東京香川県人会が都内千代田区丸の内東京会館で300名強の参加者で開催。
- ④高松市議会6月定例会でわが町出身の佐藤市議が過疎地域の塩江保育所等の遊休施設をサテライト・オフィスの誘致する考えを一般質問。企業誘致の条例改正すIT系ベンチャー誘致の助成制度整備。特に山間部塩江町に誘致の可能性を探る。とした市答弁をえました。
- ⑤8月3日塩江美術館イベント、8月12日～14日盛大に高松まつりが中央公園、来年3月末まで高松城(玉藻公園内堀)で城舟体験が意外と人気、塩江ホテルまつり児童ホテルポスター展が8月17日～9月1日、10月4日第4回古代山城サミット高松大会が夫々開催。わがまちを元気に!と言うことでゆめづくり推進事業が進行中です。塩江地区は川をきれいにして魚や蛸が住める町にしよう Vol.2に取り組んでいます。
- ⑥高松市観光振興計画、高松市創造都市推進ビジョン等のパブリックコメントの募集がありました。11月12日都内銀座 sun-mi 高松で松平お殿様始め市観光大使と高松市長ら市側関係者との研修会を開催。
- ⑦別海ふるさと会開催の秋刀魚祭りや代々木の産直フェアに参加しました。当ふるさと会役員会を6月・7月・9月・10月に開催しました。第9回のわがふるさと会総会を7月6日に都内四谷主婦会館プラザで開催し地元から佐藤市議員、和泉支所長、藤澤観光協会会長ら、木村県東京事務所長、新家別海ふるさと会長及び会員の皆さんら多数のご参加をえて賑やかに実施しました。



特集 ふるさと塩江・瀬戸芸の旅

会長 池田 克彦

10月26日から2泊3日関西・関東のふるさと会及び別海ふるさと会の方々と塩江町と瀬戸芸で鬼ヶ島(女木島)小豆島の旅をいたしました。塩江では、京都の松茸栽培の権威である吉村先生にご講演(格調高かった)とふるさと会が借り上げている松茸山の診断をお願いしました。今年は異常気象で松茸収穫はダメでしたが来年が期待されるという事でした。この松茸栽培で里山が整備されれば山も活力を戻すことと思います。地元の友人(同級生ら)に松茸山の整備管理をお願いしていますが積極的に取り組んで頂いています。今回の旅で椎茸を地元同級生の紹介で関西方面に極上の高級品として出荷し、原木から栽培した肉厚もので美味しく、不作の松茸に代わるものでした。懇親会では地元の塩江踊りを早井幸子さん、藤澤テルエさんが和泉幸弘さんの歌でご披露頂き、藤澤保さんの塩江町興しに掛けた情熱ある説明がありました。翌日は、桃太郎伝説がある鬼ヶ島(女木

島)を訪ね小豆島では3年前の瀬戸芸でお世話になったふるさと村(森川専務)と塩田小豆島町長と再会し島内観光。天候に恵まれ美しい瀬戸内の海を堪能しました。今回の特集としてこの旅にしました。ご寄稿頂いた方にご多忙のところ有難うございました。

椎茸狩りと瀬戸内芸術祭(2013.10/26～28)に参加して

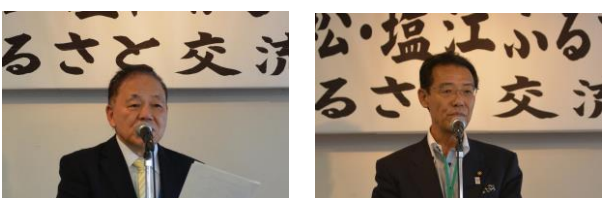
ふるさと会会員  
吉井 加寿子

台風27号が南にそれ、30分遅れで高松行は飛び立った。会長はじめ役員の方々の、昨夜から続いていたハラハラ、ドキドキはやっと治まったことだろう。大変お世話になりました。高松空港から直接、椎茸狩りに行きました。幾つになっても収穫は楽しいものです。箱にてんこ盛りの椎茸を大事にセカンドステージに運びました。

「この道はいつか来た道」という歌がある。私には「讃岐路はまた行きたい道」という思いがある。セカンドステージは4回目になる。中国語、ハンゲル、点字の表記まであり、ますます賑わっている。丁度、台湾からのお客さまと一緒にになりました。登山ブームに沸く韓国からも剣山に登りに来るようだ。松茸博士こと吉村先生のお話は、日本の食文化から松茸が消えないようにするにはマツタケ菌と栽培に必要な環境整備が大事で、それには10、20年がかりで取り組む必要がある。と言ったような話でした。関心は明日の朝食、3本の松茸で炊く「松茸ごはん」で一杯でした。懇親会は塩江の歌に合わせて、にわか仕込みのふるさと会も一緒に加わっての、塩江踊りで盛り上がりました。

27日は一転して澄みきった青空! 瀬戸芸、第一コースは鬼が迎える女木島。バス、電動自転車、徒歩に分かれて山の中腹にある洞窟へと向かいました。そこには摩訶不思議なワンダーランドが広がります。そして外へ出ると「瀬戸の花嫁」の歌景色です。第二コースは小豆島。オリーブの生い茂る大きな島です。緑、赤、黒の実を初めて触りました。千枚田の巨大な薫アート、干潮時に渡れるエンジェルロード、圧巻はサンセットポイントです。空、雲、海を茜色に染めて、島影に沈む夕陽の美しさに目を見張りました。

28日は三都(みと)半島のガイド付き芸術鑑賞です。島と海をテーマにした、発想のユニークさを感じる日本、海外の作品が室内、屋外に展開されている。高校生はじめ地域住民の参加も「芸術祭、日本一」を支える力になっている。高松のシンボルと言ったら、屋島。テーブルマウンテン形は海からの眺めがNo.1と感心していると、もう入港です。晴天に恵まれ、大満足の「瀬戸内芸術祭」でした。(神奈川県大磯町住)



高松・塩江ふるさと会の旅行に参加して



東京・別海ふるさと会  
副会長  
青山 和好

高松・塩江ふるさと会「ふるさと松茸狩り 瀬戸内国際芸術祭

の旅」2泊3日コースに参加させて頂きました。10月26日出発日、台風で出発出来るか心配でしたが予定通り出発する事が出来、先ずは一安心しました。高松空港にはホテルのバスが迎えに来ていて、そのバスで椎茸狩りに行き楽しみました。松茸狩りは都合（今年は珍しいぐらい大不作）で中止ホテルへ直行。吉村先生による松茸山再生の講演がおわり懇親会。塩江の皆様方の歓迎を受け、歌あり、踊りありの楽しい初日でした。2日目は素晴らしい天気になり、女木島（鬼ヶ島）へ、昔話で桃太郎の鬼退治伝説が残っている大洞窟を見て高松港へ。そして宿泊地小豆島へ到着迄の時間、瀬戸内海の素晴らしい島々を眺めながらの船旅。港に着きバスで瀬戸内国際芸術祭の作品を見ながら宿泊する小豆島ふるさと村へ。そこで瀬戸内に沈む夕陽に感動しました。そして懇親会、矢張り歌あり、踊りありの楽しい2日目。28日は旅行も最後、瀬戸内国際芸術祭の作品を見学して、午後小豆島より高松港へ。そして空港である高松を後にして東京へと本当に楽しい旅でした。遠く故郷を離れて首都圏に住む私共にとり。ふるさと会は心の大きな寄りどころです。郷土愛に結ばれた者が一同に相集い懐かしみ、そして郷土に寄せる熱き思い、そんな心を同じとする者が揃って郷土への旅行、こんな素晴らしい事はないと思います。今後も郷土を同じくする者の絆が益々深まることをお祈りし旅行に声をかけてくださいました。ふるさと塩江会の皆様に御礼を申し上げますと共に会のご発展を祈っております。本当に楽しい旅でした。「いいもんだあ～な～。ふるさと～は～」(千葉県九十九里町住)

我がふるさと塩江の歌



ふるさと会会員  
和泉幸弘

先日は「松茸狩りと瀬戸芸」帰省された池田会長、会員の皆様元気なお姿を拝見し安心しました。懇親会での余興で音響機器の音量調整不良があり(初使用の為)大変失礼をしました。私事ですが「新しい塩江の歌」を作り始めて6年近くなりました。皆さんにとって故郷ってどんな所でしょうか？私にとって故郷は美しく清らかで懐かしいではなくては(良い思い出が無かったとしても)いけません。小さい頃から三橋美智也の故郷歌謡を聴き過ぎたのでしょうか、故郷から遠く離れた所に住んでいるわけでもないのに、両親がなくなってから特に望郷の気持ちが強くなりました。故郷はいつまでも優しい父母であり、初恋のように甘酸っぱいものであつて欲しいと思います。私にはドロドロした人生模様は描けません、したがって詩を書く事が一番大変です。塩江の名所とかを読み込み情景が浮かぶようにすれば反対にドラマがなかなか作れません。毎日、朝夕

散歩しながら詩とメロディを思いつくまま口ずさみ、帰宅後、詩をメモし、又翌日もその作業を続け、気に入ったフレーズが浮かんだら歌ってみて徐々に作り上げて行きます。これからは塩江が故郷でよかつたと思えるような作品を作れるように勉強して行きたいと思います。藤沢テルエ先生&塩江民舞同好会の皆さん、塩江中学校昭和38年卒業の仲間たち(「塩江つれづれ」の藤沢保さん、小説の島上且司さん他)及び地元の人達と力を合せ、我が故郷塩江のイメージアップ並びにPR活動を続けたいと思います。急に寒くなってきました、皆様も風邪をなど引かないようにしてください。又お会いできる日を楽しみにしています。今後とも宜しくお願いします。(高松市一宮町住)

元気な活力ある塩江を！

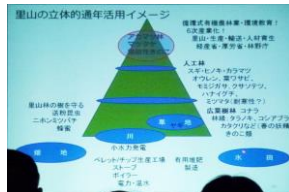
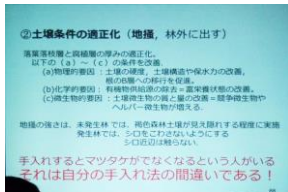


ふるさと会会員  
藤澤 保

去る10月26日開催された、ふるさと交流では大変お世話になりました。吉村先生によるマツタケ山を再生したマツタケ栽培はできるという講演にはすごく興味深いものがありました。我が家にもマツタケ山がありまして、かつては何十kgも採れていたマツタケ。ここ2年一本も採れません。赤松がドンドン枯れていって山は無残なものです。まずは松クイ虫の防止、雑木の伐採、こくばかきと前途多難ではあります。塩江産のマツタケが昔のように沢山採れるようになるために再生に向けて取り組むことは非常に意義あることだと思います。それから、私は昨年より赤いソバを栽培していますが、今年は約200坪に可憐な赤い花が咲き誇りました。朝日新聞の記者の方から今年はどうしても紹介したいと掲載戴きました。新聞を見られて高松市内を中心に坂出、丸亀、満濃、白鳥、遠くは小豆島からも見学に来られました。皆様第一声は「うわーきれいですね」「かわいい花」と。来年は、手打ちソバをいう夢があります。藤川牧場の藤川会長も、塩江を元気にと1500坪の広さにコスモスを植えられました。今年の秋は塩江に名所が二つできました。こうして塩江に来られるお客様は、道の駅で買い物をしたり、食事をしたり、また温泉を利用したりされています。



年間通じて塩江へ来ていただけるように魅力ある塩江、活力ある塩江をめざしてより一層願張りしたいと思います。(高松市香川町住・塩江出身)



事務局よりお知らせ

- ① 7月6日ふるさと会総会で23年度・24年度の事業と会計報告と25年度・26年度の事業計画と予算報告が承認されました。25年度・26年度の事業計画は、1) 松茸山等再生事業支援 2) 塩江米等の特産品販売支援 3) 交流事業・・・東京別海ふるさと会との交流 瀬戸内国際芸術祭参加、松茸狩りふるさと旅行、ふるさとUターン支援、塩江中学スポーツ支援 4) 会報「なにしょんな」26号27号28号29号の発刊です。
- ② 今年9月と10月にトラック島で旧日本軍の沈没艦船調査を昨年に続いて行いました。中井前町長のご子息のご配慮で今年8月読売新聞に掲載して戴きました。昨年は30隻近くの沈没艦船、今年は3隻(駆逐艦文月と追風及び油槽船神国丸)をマルチソナーで発見しました。ご遺族が探してほしいとされていた駆潜艇29号は空爆撃沈(実際は轟沈とか)され小艦艇である為小さく飛散していると思われる事と70年の経過があり、しかも今年は異常気象の海の荒れた中で徹底して調査しましたが発見ができませんでした。残念でした。機会があれば来年トライもしたいと思います。



編集後記

今年台風が多く強いものでした。トラック島での調査もこの天候が災いして苦労した様です。海水温度が30度あったとの事で驚き松茸の不作もこの天候に関連する様です。今年もあと僅かですが忙しい1年だった感じがしますが来年は午年飛躍ある一年を期待したいと思います。次号は来年春に予定します。

(編集人 池田克彦：深野裕美子)